

このメンテナンスガイドは、メンテナンスチェックリストの項目の詳細を記載しています。

【保管用】



アイルウォーク^{ライト}Light メンテナンスガイド

この「メンテナンスガイド」を必ずお読みいただき、大切に保管してください。

この「メンテナンスガイド」を必ずお読みいただき、十分ご理解の上、「メンテナンスチェックリスト」に従って作業をすすめてください。

なお、交換時のトラブルなどに関しては、一切の保証をいたしかねますので、あらかじめご了承ください。

※この「メンテナンスガイド」による作業は、弊社契約の自社でレンタル、メンテナンスを行っている事業者様に限ります。

※メーカー修理対応時の返送料は、お客様のご負担となります。

※製品の品質向上のため、仕様・外観は予告なしに変更することがあります。

目次

正しいメンテナンス作業のながれ	1
1. バッグ部システムの点検	1
2. 補修スプレーの使用	3
3. フレームの点検	4
4. フレームの開閉点検	4
5. ハンドルの高さ調節部の点検	4
6. 溶接部の点検	5
7. リベット部の点検	6
8. シールシステムの点検	7
9. バネシステムの点検	7
10. ネジシステムの点検	8
11. 樹脂パーツ①の点検	9
12. 樹脂パーツ②の点検	10
13. 車輪システムの点検	10
14. ブレーキ系統・附属パーツの点検	11
15. 車輪系統可動部の性能点検	12
16. 走行点検	13
17. 点検の終了にあたって	14
車体の保管・お手入れ・破棄について	14

このガイドに関しまして、ご不明な点やご質問などがありましたら、
弊社サービス係までお問い合わせください。



株式会社 **アイルリンク**
〒700-0971 岡山市北区野田 3-16-1 下電開発ビル 2F

TEL 086-805-4550
FAX 086-805-4551

正しいメンテナンス作業のながれ

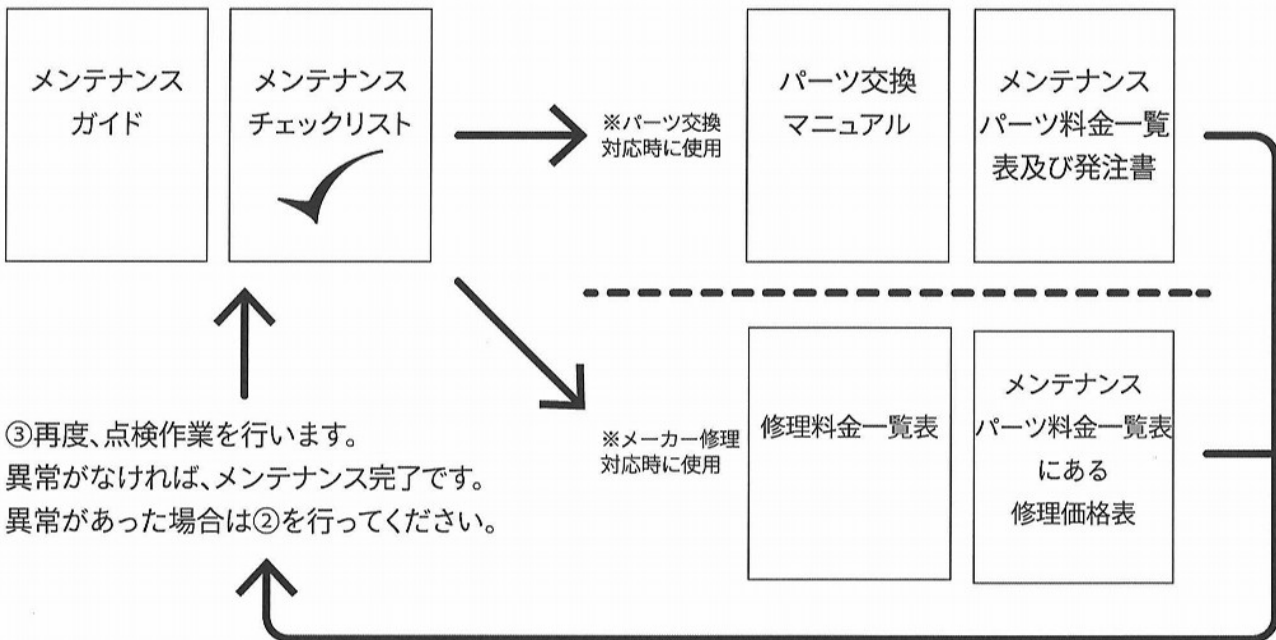
メンテナンスチェックリストに従って点検作業を行います。購入年月日、実施日、回数及び実施者の各項目に記入し、メンテナンスチェックリストの項目に沿って点検作業を進めてください。

点検作業のなかで、異常や劣化などが見つかった場合は、必要に応じ「メンテナンスパーツ料金一覧表にある修理価格表」・「修理料金一覧表」を参照し、メーカーに修理を依頼してください。もしくは「メンテナンスパーツ料金一覧表及び発注書」・「パーツ交換マニュアル」を参照し、十分にご理解いただき、パーツを取り寄せ、交換を行ってください。

交換までの作業を一通り終了した際は、その車体を再度メンテナンスチェックリストに従い、点検作業を行い、異常や劣化のない車体に仕上げてください。

①点検作業を行う

②必要に応じてパーツ交換、修理を行う



◇◇◇メンテナンスチェックリストに従って点検作業を行います◇◇◇

1. バッグ部系統の点検

①取扱説明書のバッグ内の有無

- ◆バッグ内に入っているか確認してください。
(ない場合はメンテナンスパーツ料金一覧表からお取り寄せください)

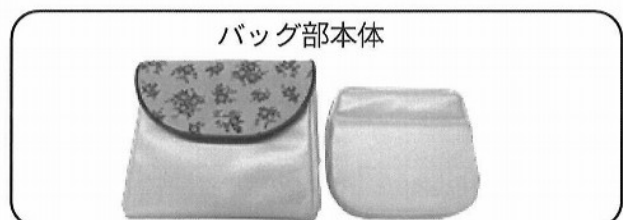


②バッグ部本体全てのホックを留めることができる

- ◆各部のホックが正常に付いているか、またホックを留めることができるかを点検してください。

- ◎ホックがとれていたり、きちんと留まらない場合は交換してください。

【パーツ交換マニュアル P.6 参照】





- ③ バッグ部本体にほつれ、破れ、汚れがない
- ◎ バッグ部本体の破れがある場合は交換してください。
【パーツ交換マニュアル P.6 参照】
- ※ パーツは 1SET になっております。座面のみ、
バッグのみ等の個別発送は行っておりません。

④ 本体表示の破れ、汚れがない

⑤ バッグの底板の有無、割れがない

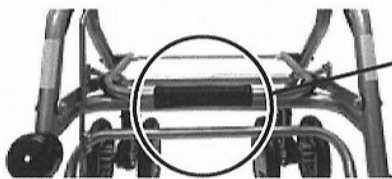


⑥ 傘止めバンドの有無

- ◆ ない場合は傘止めバンド(ボタン式)を取り付けてください。
- ※ パーツ交換用の傘止めバンドはボタン仕様になります。

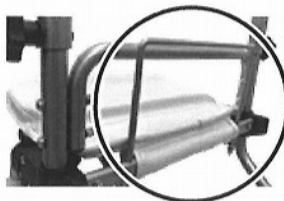
⑦ ハンドル用ウレタンスポンジの破れ、汚れがない

- ◎ 破れ、汚れがある場合は交換してください。
【パーツ交換マニュアル P.7 参照】



⑧ 折りたたみレバー部カバーの破れ、汚れがない

- ◎ 破れ、汚れがある場合は交換してください。
【パーツ交換マニュアル P.7 参照】



⑨ バッグ差込フレームの傷や汚れ、歪みがない

- ◎ 傷や汚れ、歪みがある場合は交換してください。【パーツ交換マニュアル P.7 参照】

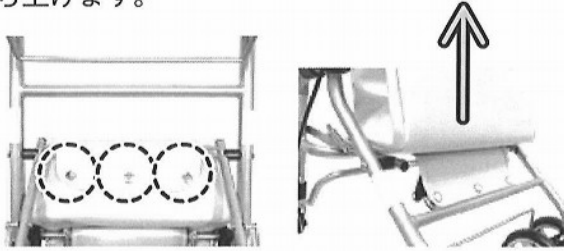
バッグ部系統のお手入れについて

- 汚れがある場合には、やわらかい布などでふき取ってください。
- ※ シンナー、ベンジンなどの揮発性溶剤を使用しないでください。生地が変色する恐れがあります。
- ※ 衛生的にアルコール類を使用する場合にはやわらかい布などに少量を染み込ませて軽く拭いてください。
- ◎ 汚れが落ちない場合には、紫外線などにより変色、使用過程による変退色なども考えられます。それぞれのパーツを交換してください。

バッグ部本体の取り外し方法

<バッグ>

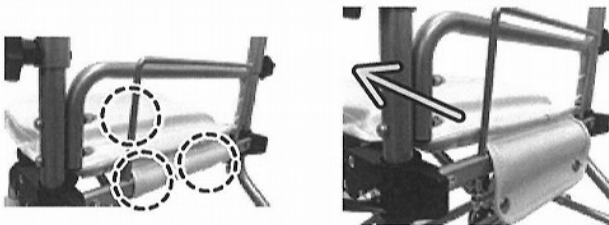
バッグ底面のホック3ヶ所を外し、バッグを持ち上げます。



<座面>

座面裏側(袋内の)ホック1ヶ所とバッグ差込フレーム側パイプのホック2ヶ所を外します。

- 座面は袋状になり、座面パイプに差し込んだ状態になっています。座面を車体の後方に引っ張り、座面パイプから抜いてください。



車体の後方へ引き抜く



バッグ部本体を取り外した車体

2. 補修スプレーの使用(外観点検)

※作業に取りかかる前に、車体からバッグ部本体を取り外してください。

- ①フレーム部分に塗装剥げや傷がない
- ◎塗装剥げや傷がある場合は、スプレー塗料で補修をしてください。
【パーツ交換マニュアル P.8 参照】



スプレー塗料 300ml

※これより先の点検作業をスムーズに行うために車体からバッグ部本体(2点)を取り外してください。

3. フレームの点検(歪みや凹み、錆の点検)

①フレーム(本体補強パイプを含む)に歪み、がたつきがない

◆車体の歪みを点検する際、水平な場所で車体より少し離れ、目視点検も行ってください。

◎フレームの歪み、がたつきがある場合は、メーカー修理となります。メーカーに修理依頼をしてください。【修理料金一覧表参照】

②フレーム(本体補強パイプを含む)に凹みがない

◎フレームに凹みがある場合は、フレーム交換を推奨します。【パーツ交換マニュアル P.2 参照】

③フレーム(本体補強パイプを含む)に錆がない

◆錆がある場合、金属部分が腐食している可能性があります。十分な点検を行ってください。

◎フレームに錆がある場合は、フレーム交換を推奨します。【パーツ交換マニュアル P.2 参照】

4. フレームの開閉点検(可動部の性能点検)

※違和感や異常が見つかった場合は、メーカーに修理を依頼してください。【修理料金一覧表参照】

①スムーズに車体を折りたたむことができる

◆片手でハンドルを持ちながら、折りたたみレバーを上げてください。

②スムーズに車体を開くことができる

◆片手でハンドルを持ちながら、折りたたみレバーを下げてください。

③車体を開いた状態で、座面がスムーズに上げ下げが出来る

◆座面パイプの端をもち、90度の角度まで上げ、再び下ろしてください。

④フレームを折りたたんだ時、手を離しても車体は自立している



自立している状態

5. ハンドルの高さ調節部点検(可動部の性能点検)

①ハンドルの高さを調節する時、スムーズにハンドルを上げ下げ出来る

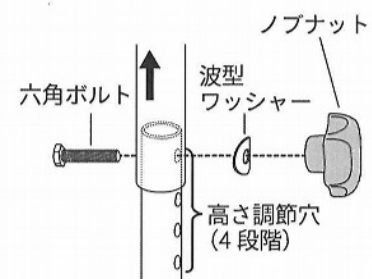
◆左右のハンドル高さ調節部ノブナットを回し、ハンドル高さ調節部六角ボルト、ハンドル高さ調節部ノブナットを外してください。

◎違和感やスムーズに可動しない場合はメーカーに修理を依頼してください。

【修理料金一覧表参照】

※点検後は左右のハンドル高さ調節六角ボルトを高さ調節穴の最上段に差し込み、しっかりと固定してください。

※ハンドル側の高さ調節穴の六角部に、ハンドル高さ調節部六角ボルトが正しく差し込まれていることを確認してください。



6. 溶接部の点検

◆すべての溶接部分のがたつきや外れがないかを点検してください。

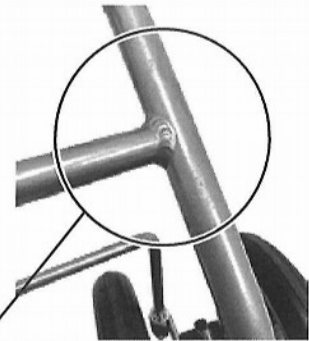
◎溶接部分にがたつきや外れが見つかった場合は、フレームの交換をしてください。

【パーツ料金一覧表参照】

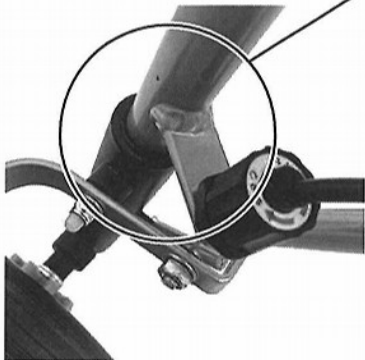
④後脚U字型パイプ部
(左右2ヶ所)



①前脚下部
(左右2ヶ所)



②後脚ブレーキ調節部
(左右2ヶ所)



③ブレーキプレート部
(左右2ヶ所)



⑤座面可動パイプ部
(左右2ヶ所)



7. リベット部の点検

◆すべてのリベット部の錆や外れ、がたつきがないかを点検してください。

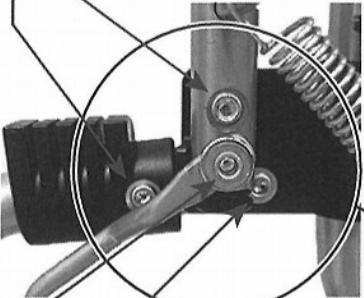
◎リベット部に錆や外れ、がたつきが見つかった場合は、メーカーに修理を依頼してください。

【修理料金一覧表参照】

②座面受け樹脂部(左右2ヶ所)

③座面可動パイプ部(左右2ヶ所)

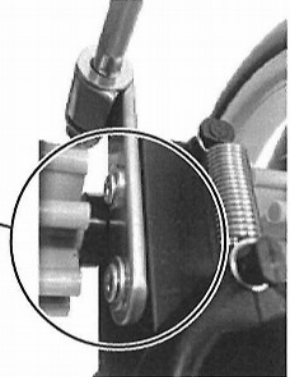
⑤座面取付パイプ部(左右2ヶ所)



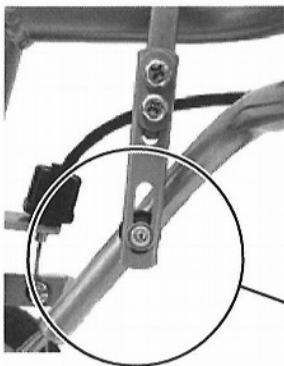
①本体樹脂部(左右2ヶ所)

④座面連動プレート部
(座面可動パイプ側) (左1ヶ所)

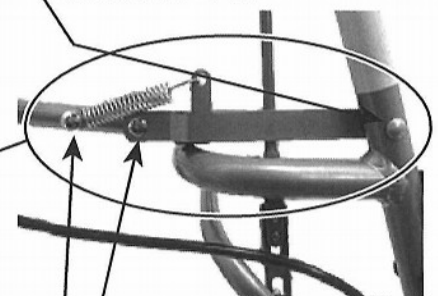
⑩スタビライザー取付
プレート部(左右4ヶ所)



⑨座面連動プレート部
(ブレーキプレート側)
(左1ヶ所)



⑥本体開閉用可動プレート部
(後脚側) (左右2ヶ所)



⑦折りたたみレバーパイプ部
(左右2ヶ所)

⑧本体折りたたみバネ掛け部
(左右2ヶ所)



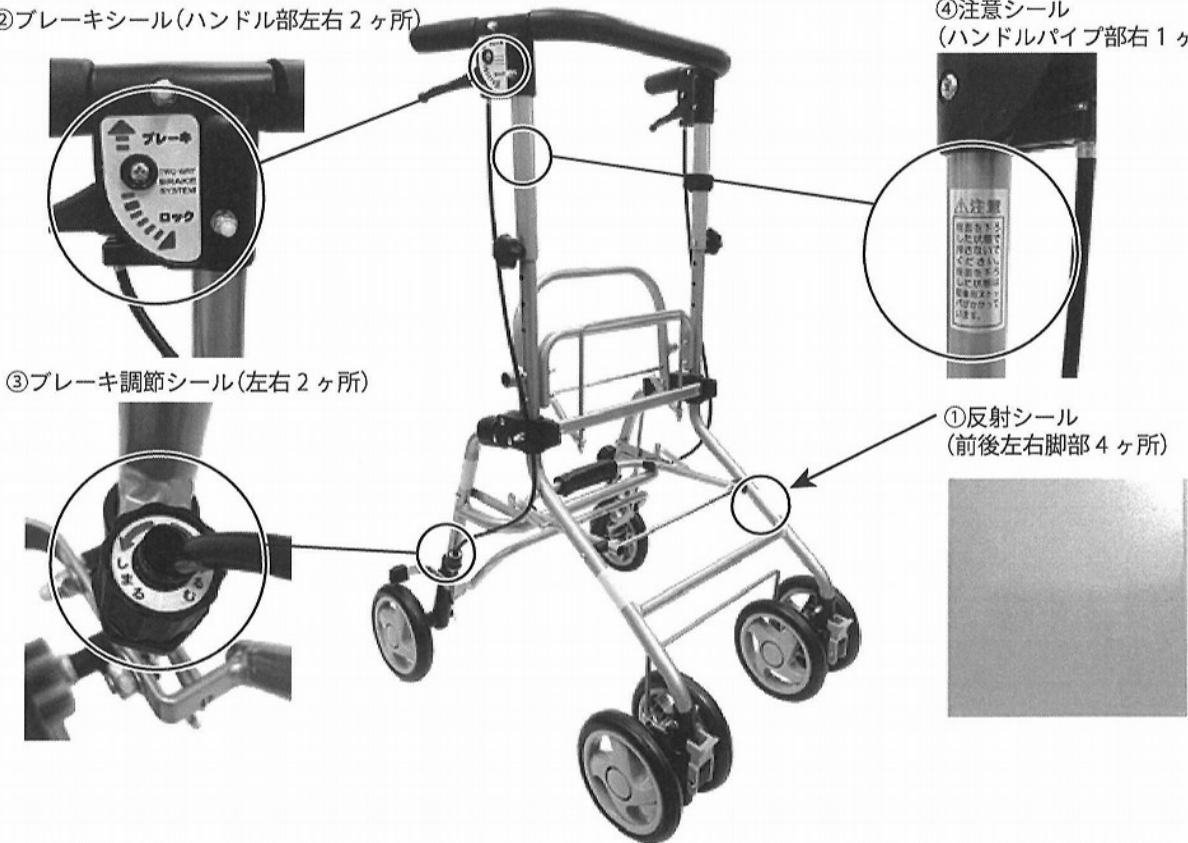
8. シールシステムの点検

◆各部のシールが剥がれ落ちていたり、汚れていないかを点検してください。

◎シールが剥がれ落ちていたり、汚れている場合は交換してください。【パーツ交換マニュアル P.9 参照】

②ブレーキシール(ハンドル部左右2ヶ所)

④注意シール
(ハンドルパイプ部右1ヶ所)



③ブレーキ調整シール(左右2ヶ所)

①反射シール
(前後左右脚部4ヶ所)

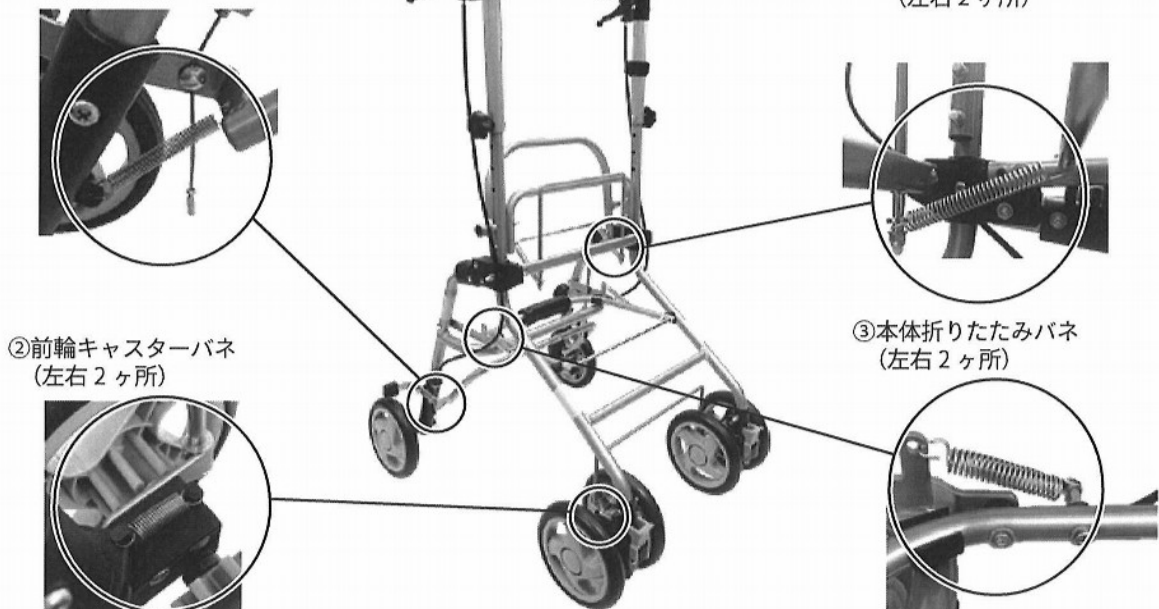
9. バネシステムの点検

◆各部のバネの外れや緩み、錆がないか点検してください。

◎バネが外れて無くなったり、錆びている場合は交換してください。【パーツ交換マニュアル P.10 参照】

①後輪ブレーキバネ
(左右2ヶ所)

④座面折りたたみバネ
(左右2ヶ所)



②前輪キャスターバネ
(左右2ヶ所)

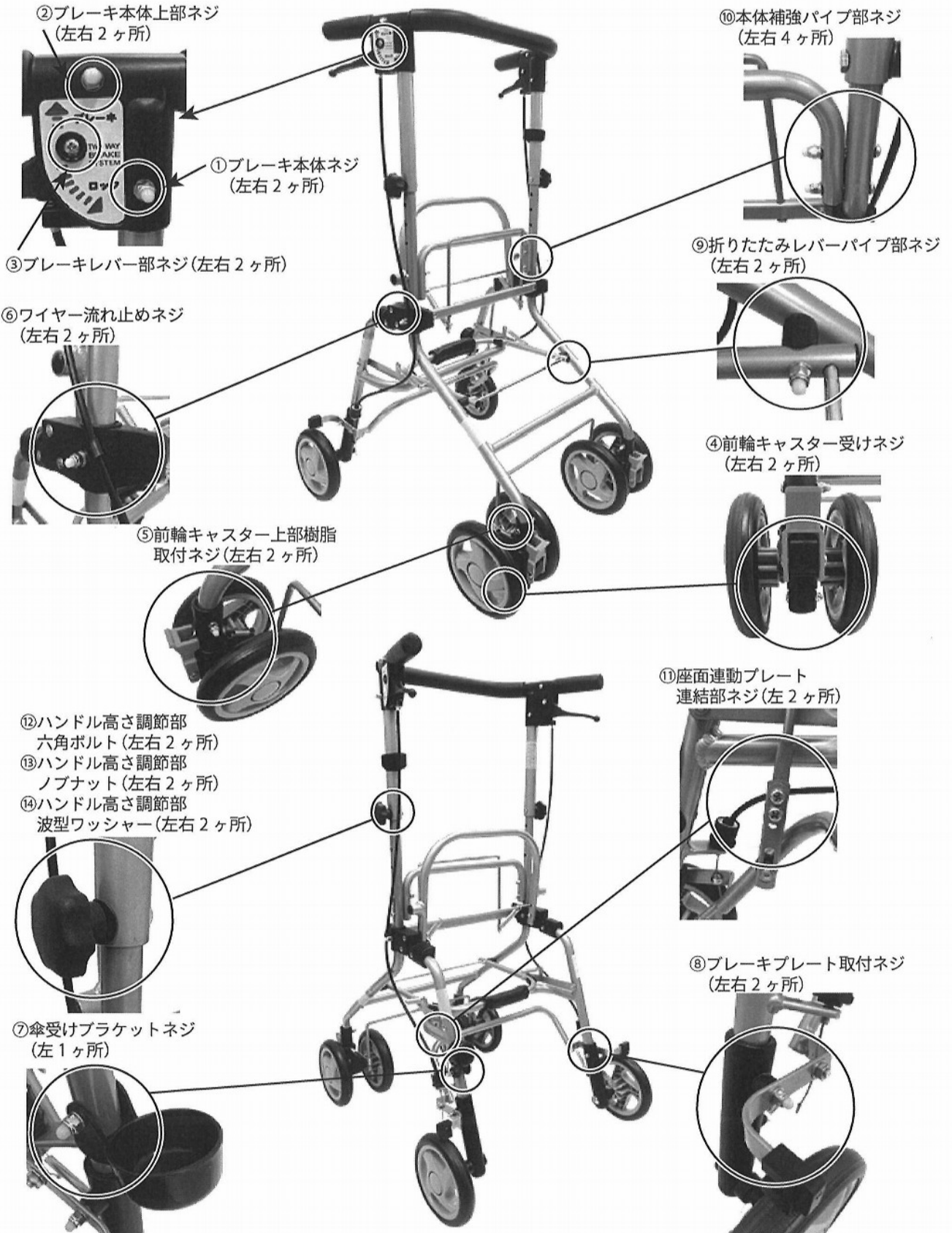
③本体折りたたみバネ
(左右2ヶ所)

10. ネジシステムの点検

◆各部のネジの抜け落ちや緩み、錆がないか点検してください。

◎ネジが外れて無い場合、錆びている場合は交換してください。【パーツ交換マニュアル P.11 参照】

◎ネジが緩んでいる場合は、その箇所の袋ナットを交換してください。【パーツ交換マニュアル P.24 参照】



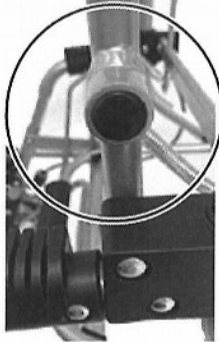
11. 樹脂パーツ①の点検

◆各樹脂パーツの割れ(ひび)や傷、汚れがないか点検してください。

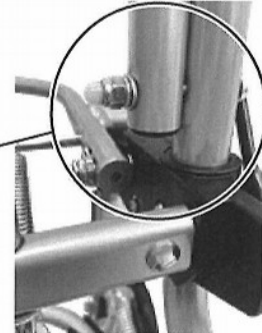
◎割れ(ひび)や傷がある場合は交換してください。【パーツ交換マニュアルP.14 参照】

◎汚れがある場合は、柔らかい布などでふき取ってください。

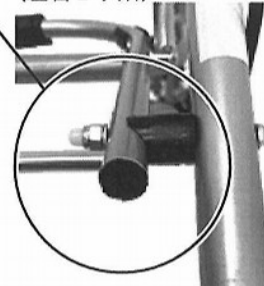
①パイプエンドツメ 6分パイプ用
(座面横部) (左右2ヶ所)



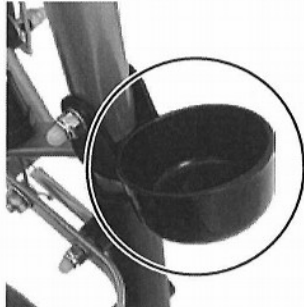
②パイプエンドツメ 6分パイプ用
(本体補強パイプ部) (左右2ヶ所)



③パイプエンドツメ 4分パイプ用
(折りたたみレバーパイプ部)
(左右2ヶ所)



④傘受けブラケット (左1ヶ所)



12. 樹脂パーツ②の点検

◆各樹脂パーツの割れ(ひび)や傷、汚れがないか点検してください。

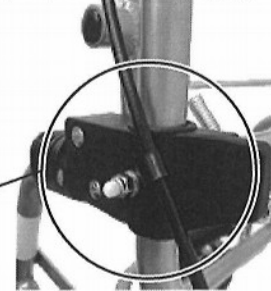
◎割れ(ひび)や傷がある場合は交換してください。【パーツ交換マニュアル P.14 参照】

◎汚れがある場合は、柔らかい布などでふき取ってください。

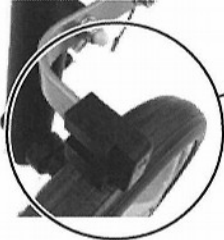
①ハンドルグリップ(左右2ヶ所)



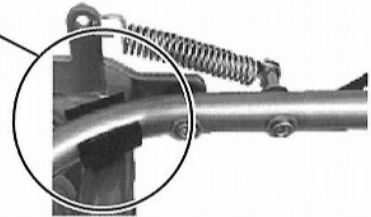
③ワイヤー流れ止め(左右2ヶ所)



②ブレーキタイヤ押さえ(左右2ヶ所)



④折りたたみレバーパイプ保護樹脂(左右2ヶ所)



13. 車輪系統の点検

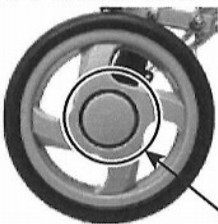
◆各樹脂の割れ(ひび)や傷、汚れがないか点検してください。

◆車輪部の劣化、摩耗がないか点検してください。

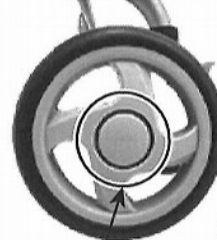
◎割れ(ひび)や傷、摩耗がある場合は交換してください。【パーツ交換マニュアル P.16 参照】

◎汚れがある場合は、柔らかい布などでふき取ってください。

①車輪(後輪)(左右2ヶ所)



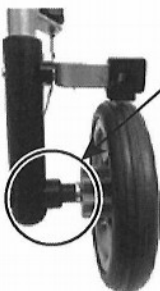
①車輪(前輪)(左右4ヶ所)



②車輪キャップ(後輪)(左右2ヶ所)

②車輪キャップ(前輪)(左右4ヶ所)

⑦後輪部樹脂(左右2ヶ所)



④前輪キャスト(左右2ヶ所)

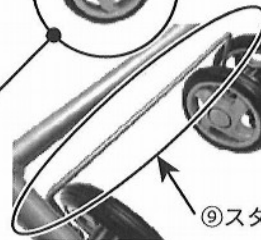
⑥前輪キャスト上部樹脂(左右2ヶ所)

⑧車輪止めナット(前後左右4ヶ所)



③前輪キャスト受け(左右2ヶ所)

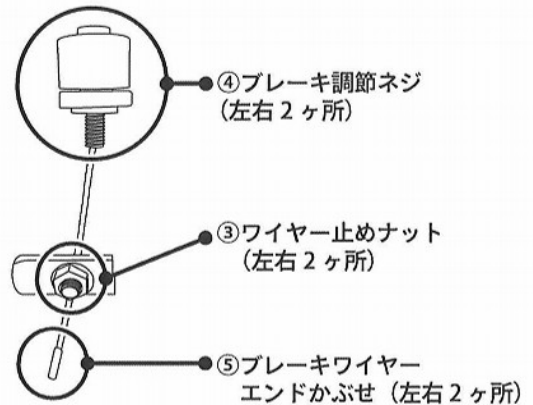
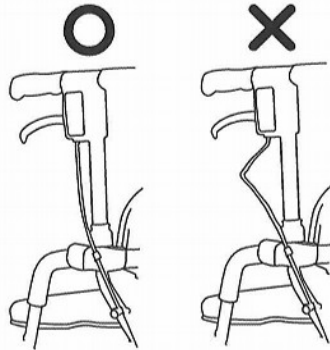
⑨スタビライザー(1ヶ所)



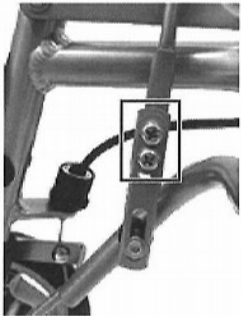
14. ブレーキ系統・附属パーツの点検

- ◆各パーツの樹脂部の割れ(ひび)や傷、汚れがないか点検してください。
- ◎割れ(ひび)や傷がある場合は交換してください。【パーツ交換マニュアル P.19 参照】
- ◎汚れがある場合は、柔らかい布などでふき取ってください。
- ◆ブレーキワイヤーの折れ曲がりや錆、先端のブレーキワイヤーエンドかぶせが抜け落ちていないか点検してください。
- ◎折れ曲がりや錆、抜け落ちがある場合は交換してください。【パーツ交換マニュアル P.20 参照】

- ①ブレーキレバー (左右2ヶ所) ②ブレーキワイヤー (左右2ヶ所)



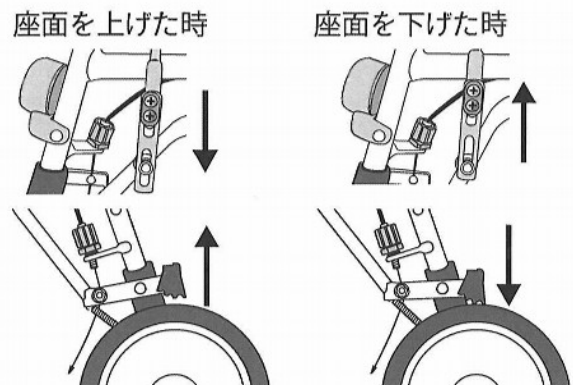
- ⑥座面連動プレート連結板 (左1ヶ所)



座面連動ストッパの可動点検

- ◆出来る限り水平な場所で点検してください。
- ◆可動部の不具合は色々な原因が複合していることがあります。可動部の性能点検でパーツを交換しても改善されない場合は、メーカーに修理を依頼してください。【修理料金一覧表参照】
- ◆車体を制動させることが出来ない場合は、ブレーキ設定を見直してください。ブレーキ設定をやり直しても異常が改善されない場合はメーカーに修理を依頼してください。【修理料金一覧表参照】

- ①車体を広げた状態で、座面の上げ下げを行い、座面連動プレートがスムーズに可動する



- ②車体を広げ座面を下げた状態で、ブレーキタイヤ押さえがしっかりと両後輪を押さえている

15. 車輪系統可動部の性能点検

車輪の可動点検

◆出来る限り水平な場所で点検してください。

◎車輪がスムーズに回転しなかったり、違和感のある場合は、パーツ交換を行う前に車輪と車軸部分の汚れを拭き取り、潤滑油を 2.3 滴、前輪キャスター部分(車軸通し穴)に注入してください。

【パーツ交換マニュアル P.16 参照】

◎前後車輪が地面と接地していなく空回りする場合は、車輪の摩耗が考えられますので、空回りする側(前輪または、後輪)の車輪すべてを交換してください。【パーツ交換マニュアル P.16 参照】

※前車輪を交換する場合は必ず、前輪 4 枚単位での交換をしてください。同様に、後車輪を交換する場合も必ず、後輪 2 枚単位での交換をしてください。

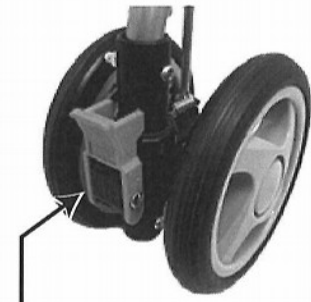
◆可動部の不具合は色々な原因が複合していることがあります。可動部の性能点検でパーツを交換しても改善されない場合は、メーカーに修理を依頼してください。

【修理料金一覧表参照】

①車体を軽く押したとき、前輪がスムーズに回転する 前 4 本

②車体を押したとき、後輪がスムーズに回転する 後 2 本

③キャスター回転止めレバーを固定位置(上げた状態)で車体を前方へ軽く押した場合、前輪と後輪が空回りせず、車体が動く



キャスター回転止めレバー (固定位置)

キャスターの可動点検

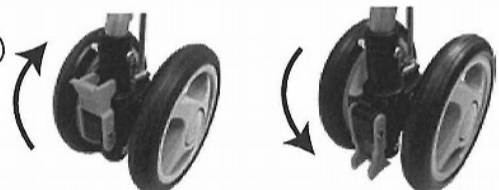
◆出来る限り水平な場所で点検してください。

◎キャスター回転止めレバーが可動しなかったり、違和感がある場合は交換してください。

【パーツ交換マニュアル P.17 参照】

◆可動部の不具合には色々な原因が複合していることがあります。可動部の性能点検でパーツを交換しても状態が改善されない場合は、メーカーに修理を依頼してください。【修理料金一覧表参照】

①キャスター回転止めレバーが上下に可動する(左右 2 ヶ所)



上げた状態

下げた状態

《車体が動く場合》

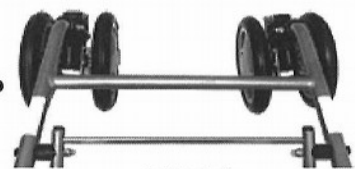
②キャスター回転止めレバーを下げた状態で前輪を右 60 度位置に保ち、前輪を持ち上げた時、スムーズに前輪が正面方向に転換する(左右 2 ヶ所)



右 60 度



持ち上げた状態



正面方向

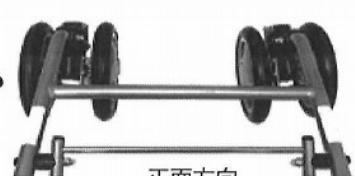
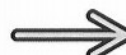
③キャスター回転止めレバーを下げた状態で前輪を左 60 度位置に保ち、前輪を持ち上げた時、スムーズに前輪が正面方向に転換する(左右 2 ヶ所)



左 60 度



持ち上げた状態



正面方向

16. 走行点検

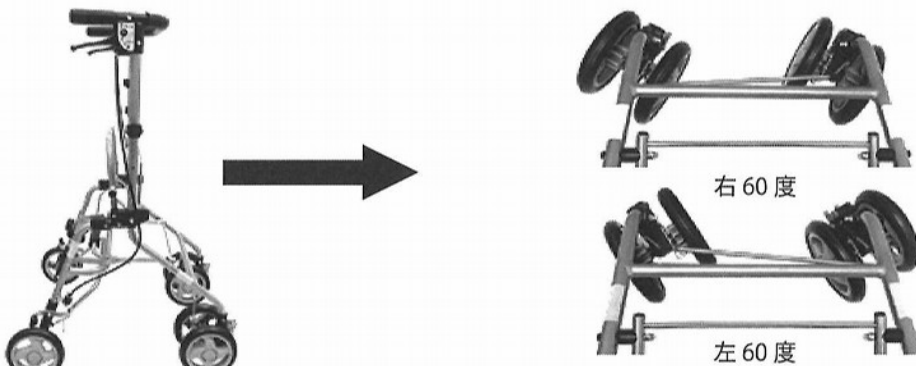
- ◆出来る限り水平な場所で点検してください。
- ◆可動部の不具合は色々な原因が複合していることがあります。可動部の性能点検でパーツを交換しても異常が改善されない場合はメーカーに修理を依頼してください。【修理料金一覧表参照】
- ◆走行時の不具合や異常は色々な原因が複合していることがあります。走行点検でパーツを交換しても状態が改善されない場合はメーカーに修理を依頼してください。【修理料金一覧表参照】
- ◆ブレーキレバーで車体を制動させることが出来ない場合は、ブレーキ設定を見直してください。ブレーキ設定をやり直しても異常が改善されない場合はメーカーに修理を依頼してください。【修理料金一覧表参照】

※走行点検における走行距離は2～3mを目安としてください。

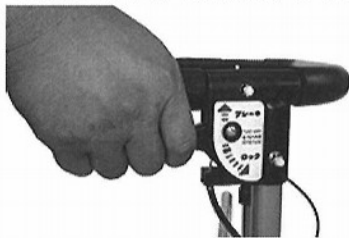
- ①キャスター回転止めレバーを固定位置(上げた状態)で車体を違和感なく前方へ押すことが出来る



- ②キャスター回転止めレバーを下げた状態で車体を前方へ動かした時、前輪キャスターがスムーズに左右同時に60度ずつに方向転換が出来る



- ③車体をゆっくりと前方へ走行させながら両側のブレーキレバーを握ると車体を制動させることが出来る



- ④車体をひろげ、静止させた状態で尚且つ座面を上げた状態でブレーキレバーを下げた時、駐車用ストッパがかかる

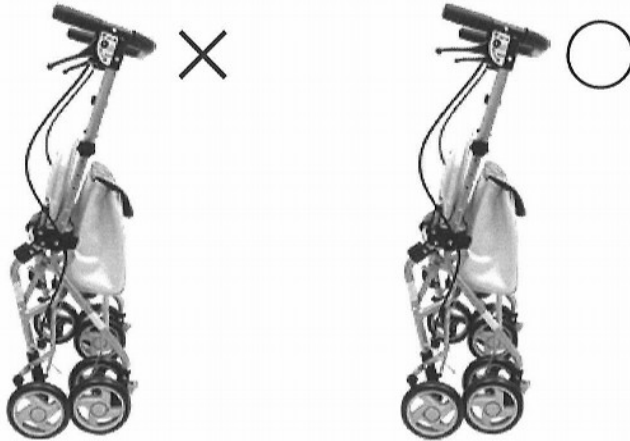


17. 点検の終了にあたって

- *バッグ部本体(2点)をフレームに装着してください。
- *バッグに取扱説明書を入れてください。

※車体の保管の際、駐車用ストッパをかけた状態で保管された場合は後車輪が凹んでしまう恐れがあります。駐車用ストッパをかけない状態で、車体を折りたたんでも自立する、出来る限り水平な場所での保管をお勧めします。

※点検が終了して異常が見当たらない車体も長時間使用しない場合は、定期的に点検作業を行ってください。



駐車用ストッパをかけた保管イメージ

弊社推奨保管イメージ

車体の保管・お手入れ・破棄について

<保管・お手入れについて>

- ◆火気の近くでは保管しないでください。
- ◆非常口や消火器類の前での保管はしないでください。
- ◆雨ざらしにしないでください。錆や劣化の原因になります。
- ◆車体が濡れた時は、乾いた布で拭き取ってください。
- ◆長期間使用しない場合は、高温多湿の場所での保管は避けてください。
- ◆寒暖の差が激しいところでの保管は、バッグなどの変色や硬化、車体の劣化、動作不良などの原因となる場合があります。
- ◆メンテナンスが終了した車体を長期間保管していた場合は、使用する前に再度、メンテナンスチェックリストによる点検作業を行ってください。

<破棄について>

- ◆各自治体の指示に従って、処分・破棄をしてください。